〈胆、肝、膵外科〉

[先生が大切だと言っていたこと]

肝臓

・肝臓のはたらきが低下するとビリルビンが代謝されず、黄疸が出てくる

⇒ビリルビンが３mg/dl以上…顕性黄疸、１mg/dl以下…不顕性黄疸

・肝性昏睡度の分類

⇒肝性昏睡度Ⅱ…羽ばたき振戦あり、肝性昏睡度Ⅳ…昏睡、痛みに反応

胆管、胆のう

・胆石症…三大症状は腹痛、発熱、黄疸

・アコースティック・シャドウ…超音波検査を行った際に、胆石があると超音波が届かず影が現れる現象。ポリープと胆石を見分けるのに重要。

・PTCD…主に閉塞性黄疸の時に行う治療で胆管をつくる

・ERCP…胆・膵管を造影する検査

膵臓

・膵癌

⇒切除率は30~40%ほどで切除しても５年生存率は18.9％

⇒手術後の合併症…膵液瘻

[過去問(H21,20)より抜粋問題]

①機能的残肝重量が１５％の場合、手術の非適応である→×

理由：肝臓は肝細胞の８５％が破壊されても機能する。また再生能力もあり、三分の二が切除されても回復できるため。

②転移性肝癌はC型肝炎にできることが多い→×

理由：日本での肝臓がんの原因の約90％はウイルス感染だが、C型肝炎ウイルス(HCV)が原因となっている場合が全体の約70％、B型肝炎ウイルス(HBV)が原因となっている場合が全体の約20％であるため。

③症状のない胆石症は手術の適応にはならない→○

理由：無症状の胆石が症状を引き起こす確率は年率約1% (10-20年で10-20%)といわれあまり高くなく、基本的には手術は行わないため。

④胆管癌は男性に多い→○

理由：胆管癌は男性に多いため。女性に多いのは胆嚢がんである。

⑤膵液の漏出が原因で出血が起こることはない。→×

理由：膵液には脂肪，蛋白質を分解する作用があるため，近くの血管を溶かして，出血の原因となることがあるから。

⑥膵臓癌につき、正しいものを選択せよ。

１、切除例の５年生存率は約８０％である→×

理由：手術を行っても３年以内に再発する可能性が極めて高く、５年生存率は１０～２０％程度とされているため。

２、膵臓癌は早期に発見できるので、早期に治療ができる→×

理由：膵臓癌は初期にはほとんど自覚症状がなく、しかも癌の進行が早いために、早期発見が非常に難しいため。膵臓癌が発見された段階ではすでに進行していることが多く、摘出手術が行えない事例が多々ある。実際、すい臓がんの切除率は２０～４０％と低い数字になっている。

３、糖尿病の憎悪は膵臓癌の発見とは関係ない→×

理由：膵臓は血糖値をコントロールするインスリンを分泌する臓器であるので、糖尿病患者が健常人に比べて極めて高い率で膵臓癌を発症しやすいため。

４、切除不能例の５年生存率は１％以下である。→○

理由：切除不能の場合の５年生存率はほぼ０％であるため。(1、2年生存率では、それぞれ18％、2％である。)

５、膵液廔は膵臓癌術後の危険因子である。→○

理由：膵臓廔は膵臓にキズがつくことによって膵臓の外分泌腺から分泌される消化酵素を含む膵液がお腹の中に漏れることであり、術後合併症のひとつであるため。

したがって、正しいものは４と５である。